

【工夫のポイント】

- 都市の中の貴重な農地を有効活用するため、**地域の代表的農家が中心となって話し合い、基盤整備を実施。**
- 立地を生かして都市住民を呼び込み、**観光農園や市民農園など交流を促進**することで、新たな収入を確保。
- **作物の多品種化・高品質化**を進めることで、収穫体験の長期間化や直売品目の充実を図る。

生産条件の改善により都市近隣農地を維持

農地の有効活用を図るため、**農業振興地域の指定**を受けて土地改良事業を実施。畑の区画整理、幅員5m以上の農道の整備、畑地かんがい施設の整備を実施。**整備した農地の一部を市民農園として開設**（500区画）。



基盤整備
(H3年～H9年)

【整備前】

起伏のある丘陵地の中に**狭小な農地(畑)**が散在し、**農道の幅員も1m程度**で農作業に支障をきたし荒廃農地も多く存在。

機械化も進まず、**自給的農業が中心**であり、観光農業や市民農園など都市住民との交流もできる環境ではなかった。



【取組地域の概要】



- 位置
よこはまし かなざわく
神奈川県 横浜市 金沢区
- 主要作物
・ほうれんそう、キャベツ、みかん
- 主な支援施策
・農村基盤総合整備事業(H3～9)
・地域農業活性化促進事業(県単)(H9～12)
・農業専用地区制度(市単)
・恵みの里制度(市単)
・地産地消ビジネス創出支援事業(市単)

消費者へのPRの機会を数多く創出



- 露地野菜、柑橘の多品種化を進め、**収穫体験の長期間化や直売品目の充実**を図る。
- 市の防災協力農地第1号として登録し、存在を市民へPR。

加工品の開発による6次産業化



- 今まで廃棄していた摘果みかんの果汁を材料にした**ドレッシング**を地元料理研究家が開発。
- 摘果みかんは、メーカーと農家が直接取引販売。

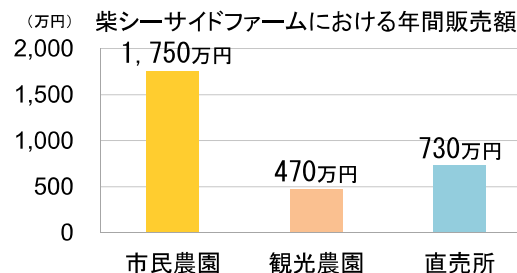
農家団体設立による都市住民との交流促進



- 地域の代表農家が中心となり「**柴シーサイド恵みの里協議会**」を設立。**収穫体験などの農体験の場を企画**するほか、**農産物の直売や農業イベントを実施。**

観光農業や市民農園での交流を通じた新たな収入の創出

- 農道整備により生産物の輸送環境が整ったことは、**観光農園や市民農園、直売所の開設にも貢献**。みかんやイモの収穫体験には年間約1万人が来訪。
- 平成10年に開設した市民農園では、延べ9千件の利用があり、農地の有効活用により、**自給的農業が中心であった地域に新たな収入**を生み出している。



【出典：柴シーサイド恵みの里協議会 資料】